

## 銚子の風力発電

銚子市を含む周辺の地域は、関東平野から太平洋へと突き出し、東総台地という標高40m～50mの台地が広がった地域で、東南北の三方を海に囲まれております。そして、1年を通して風速6m/s前後の強い風が吹いていることから、平成13年以降、様々な事業所が銚子市内に34基(銚子屏風ヶ浦風力開発(株)6基、(株)エムウインズ2基、銚子風力開発(株)15基、くろしお風力発電(有)2基、(株)堀江商店1基、(株)台町自然環境エネルギー研究所1基、銚子ウインドファーム7基)の風車を設置・運営し、その風車の多くは1,000kW以上の大型風車で、総出力は53,560kWとなっており、一大風力発電群を形成しています。

地元への経済効果は、市への税効果をはじめ建設に伴う費用、土地所有者との不動産売買・賃貸料、メンテナンス企業への雇用が主であり、また、景観にも大きな変化をもたらしており、観光面でのプラス材料になっています。



写真1 風力発電施設(愛宕山から見た風力発電群)

そうした中、平成23年3月に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故のあと、日本でのエネルギーをめぐる状況は大きく変化し、特に、電力に関しては公共施設や民間企業が、太陽光発電・風力発電・バイオマス利用など新エネルギーへの取り組みも盛んに行われております。また、風力発電が環境に優しいクリーンな再生



写真2 太陽光発電施設

可能エネルギーであることや比較的 low cost で事業化が容易であること、さらに政府が洋上風力発電を推進していることから風力発電への関心が高まっています。

銚子市内でも、太陽光発電のパネル設置が多く目につくようになりましたが、地の利ではありませんが、洋上風力発電に関する関心が高まっています。

洋上風力発電は、陸上に比べ安定した風力を得られることから欧州では盛んに進められており、日本でも「2020年を見据えた海洋国家成長戦略」の中で開発・普及を進めていくと明記されています。

こうした状況の中、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と東京電力(株)が共同で、我が国の厳しい自然環境に適用できる設計・建設・運転保守などを実証的に確立することを目的に、日本初となる沖合いにおける洋上風力発電の実証研究設備として銚子市の南沖合3.1km、水深約11mの海域に着床式風力発電設備1基(出力=2,400kW・高さ=126m)を設置し、現在稼働しております。洋上風力発電実証研究設備の設置に関してご理解・ご協力を頂いた銚子市漁業協同組合、海匝漁業協同組合、九十九里漁業協同組合に対して、「銚子沖洋上風力発電実証研究設備の漁業への影響等に関する評価委員会」を4回に亘り開催し、漁業に関する影響等に関して、これまでの環境影響調査結果や漁業との共生方策を有識者に評価して頂きながら、漁業者へ説明しています。



写真3 銚子沖の洋上風力発電実証研究設備



写真4 洋上風力発電に関する勉強会

洋上風力等の海洋再生可能エネルギーの導入は、少子高齢化や人口減少が著しい銚子市における、新たな産業の創出、雇用の拡大、そして、地域活性化に向けた現実的な起爆剤となる潜在力を有しており、特に、厳しい財政状況を改善しなければならない当市の再生手段の一つとして、企業進出による雇用促進や税効果が見込まれる銚子沖

洋上風力発電施設の誘致促進に関して商工会議所が中心となり、専門家を招いての勉強会をはじめ先進企業への視察研修会、地元への経済効果等の調査を実施しており、市民全体の機運を高めるような活動に取り組んでいます。